



「ラッセーラー、ラッセーラー」 (8月13日 マンガ絵ぶた公園ほか)

川上町の夏の夜を彩る恒例の「マンガ絵ぶたまつり」(川上町商工会主催)が開かれました。今年で11回目を迎え、10基の「絵ぶた」がとともに踊り手の「はねと」が登場し、会場を埋め尽くした約1万人を魅了しました。今年のマンガ絵ぶた大賞はドリームファクトリー「ももっちと岡山城」、準大賞は地頭えぶた会「加藤清正の虎退治」と川上町商工会青年部「ナルト」でした。



健康でイキイキと (9月3日～4日 成羽総合福祉センターほか)

一人ひとりが、愛と奉仕の心を持ち、共に助け合う地域の実現に向けて、「健康福祉まつり成羽」(市・社会福祉協議会成羽支会主催)が開かれました。輪投げ・ピンボウリング、ビリヤード、ゲートボール、ソフトバレーボール大会などさまざまな催しがあり“健康と福祉を考える日”となりました。参加者は延べ400人。

アユ! 取ったどーっ!

(8月15日 高倉町秋町河原)

お盆の恒例となった「アユのつかみどり大会」が開かれ、市内外から約3000人の親子らが詰めかけました。あいにくの雨に見舞われ一時中断する場面もありましたが、参加者は、びしょびしょになりながら魚影を追っていました。大会は川面・高倉地区の有志でつくる「自然と親しむ会」が毎年開いており、今年で20回目。



真剣勝負に大歓声

(8月21日 剣道/成羽中、柔道/成羽武道館)

市教育委員会の主催で「体力づくり少年柔剣道大会」が開かれ、高梁、新見、真庭、倉敷などの少年団や中学生が参加。剣道・柔道共、それぞれ約130人の参加があり、選手は家族らの大きな声援を受けながら、日ごろの練習成果を遺憾なく発揮していました。



「認知症」に正しい理解を

(9月4日 備中総合センター)

市は、在宅高齢者を取り巻く現状や課題について「認知症高齢者支援体制充実のための研修会」を開きました。家族介護者をはじめ、保健福祉関係者や消防、警察など幅広い層から約350人が参加。パネルディスカッションでは、参加者がそれぞれの立場での「使命と実情」について、真剣に議論し有意義な意見交換が行われました。

ちよつといひ話

(市民から届いた便り)

親切という奇跡は生きていた

巨瀬町 横本寛治さん

8月14日、お盆で帰省していた兄弟3人と伴侶の総勢5人が、兄の愛車に乗ってカールスト台地の草間へ日本蕎麦を食べに出かけた。美味しい蕎麦を堪能した後、みことな雲海を見られる様を想像しながら高梁川の方に下って行った。車中、懐かしい昔話をしながら、中井から巨瀬に抜ける旧道を走ってみようということになり、そちらを走った。峠を越えてしばらく行ったところで前方から車がやって来た。そのまま走れば出来ぬ。運転していた弟はバックを始めた。間もなく、「ガツン」という衝撃があつて車が止まった。助手席に乗っていた兄が、「やっただか!」と落胆の表情。弟はしきりに「ごめん、ごめん」と謝っていた。

外に出てみると左前輪が完全に側溝に落ちて宙ぶらりんになっていた。我々は平均年齢63歳の男3人、とても持ち上げられない。どうしたものか、通り過ぎたと思っていた先ほどの車が、少し先に止まっていて、運転手が降りてきた。その内、近所の方なのか、あるいは車で通りがかつた人なのか、3、4人の男性が集まってきた。30代後半ぐらいの働き盛りの年代に聞いた。我々をそつちのけ

で、どうやって引き上げたらよいか談義が始まった。やがてその中の一人がテキパキと指示し、右後方を押さえる者、脱輪した左前方を持ち上げると指示があり、それぞれの部所について、掛け声とともに動かした。車は一度でみこと復旧に成功した。

我々は引き上げていかれる皆さんに、深々と何度も何度も頭を下げお礼を言った。どのようにお礼の気持ち

を伝えたらよいか分からず、5人皆が「ありがとうございまして」を繰り返した。元に戻った車の床下を見ると、一番強度のある部分で支えていたようので、どこにも傷はなかった。まるで奇跡のよう

に、我々には思えた。

「奇跡」は車の傷だけではなく、笑顔で去って行った見知らぬ方々の親切こそ、我々には「奇跡」に思えた。面倒なことには関わらないで、知らぬ顔で通り過ぎていくのが都合であり、それが常識と、考えさせられることがある。困っている人を見過ごさ

にできなかつた故郷の皆さんへ、ごく自然に親切を置いていかれた皆さんに、心から感謝と感動を覚えました。お陰で今年のお盆は、最高に爽やかな素晴らしいものになりました。